

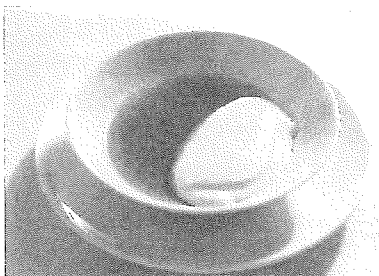
茂木友三郎対談

# 飯野正子

留学の体験を通して

国境を越えた人と人との繋がりを培う

子どもの頃から英語に慣れ親しみ、津田塾大学へ進学、卒業後はアメリカ留学を経験された飯野正子さん。帰国後は、母校である津田塾大学の講師になられ、助教授、教授等を経て、二〇〇四年から八年間学長を務められた。現在は、日米教育交流振興財団（フルブライト記念財団）理事長として、日米の学生や研究者への支援活動を通じ、両国の相互理解の促進と国際的人材の育成に尽力されている。



茂木 本日はようこそおいでくださいました。

飯野 お招きいただきありがとうございます。

茂木 お生まれはどちらですか。

飯野 大阪府豊中市です。高校まで豊中におりました。

茂木 英語は子どもの頃から勉強されていたのですか。

飯野 津田塾大学やICU（国際基督教大学）の教授、神田外語大学の学長などを務められた、言語学者の井上和子先生が豊中の家の近所に住んでいらしたのですね。先生には私と同じくらいの年のお嬢さんがいらして、英語を教えたいのだけれど、親では反発して学ばないからということ、ご自分のお友達の津田塾大学の卒業生を家庭教師にされたのです。その時に、仲間がいたほうがいいので正子さんも来てくださいということ、二人でお習いしたのです。それが小学生の頃でした。

もうひとつは、七つ上の姉がずっとミッシェンスクールに通っていたのですが、そこは英語にとっても力を入れていて、宣教師の方がたくさん教えていらつしやるのです。姉が大学に通う頃になると、宣教師の方々と年が同じくらいですから、よく家に来られるようになって、私が大学に入る前、英語のヒアリングの練習をする時に手伝ってくださいました。

ですから英語を「勉強した」というほどではないのですが、そうした環境がありました。

茂木 小学生の頃から英語に接する機会があまりになったというのは、とてもプラスになりますね。英語に対する恐怖心など、構える

うことを、十八歳の時に強く感じました。

茂木 男子がお茶室に六人もいるとケンカになりますよ（笑）。

飯野 そこには一年いたのですが、よく頑張ったと思います（笑）。でも、その時にはわかりませんが、今思えば、人はそれぞれ違うけれども一緒に生きているという意識をしっかりと持たせてくれました。授業より何より、それが私にとって一番の良い経験でした。その後は四人部屋、そして二人部屋の洋室になりました。寮を出て下宿をする人もいましたが、私は四年間寮で生活しました。

茂木 大学では何を専攻されたのですか。

飯野 アメリカ研究です。三年生から専攻が決まるのですが、私が二年生の頃、一九六〇年代半ばは、それこそグローバルゼーションでアメリカ政府が自国の文化を外へ伝えようと一生懸命でした。その重要な部分、アメリカ研究を世界に広めようという時だったのです。アメリカが非常に強い時代で、海外に対

ことがなくなるでしょう。

飯野 少なくとも、日本語以外に言葉があるといえますか、日本文化以外に何かあるというのを幼心に学んだ気がします。

茂木 津田塾大学に進学されることは、早くから決めておられたのですか。

飯野 私が大学に入る頃、井上先生は高校で英語を教えていらして、私の四つ上の兄がお習いしていたのですが、井上先生は素晴らしいといつてすっかり傾倒していたのです。それで、井上先生が出られた津田塾大学がいいのではないかと勧められました。でも、当時は国立大学に入ることが一番でした。兄は近いので京都大学に行きましたし、私は友達と一緒に大阪大学を受験して合格したのですが、津田塾大学にも行きたいという思いがあったので受験しまして、結局そちらに行くことにしたのです。

### 良い経験をした大学の寮生活

茂木 上京されて、寮に入られたのですか。

飯野 はい。キャンパスの中に寮があつて、二人部屋と四人部屋があつたのですが、その年は入寮希望者が多かつたのでしようね。どこでどうなつたのかわかりませんが、寮の元茶室に六人が入りました。

茂木 そうすると一人一畳ありませんね。

飯野 一度に五人の友達ができて楽しかったのですが、学ぶことばかりでした。多様性を感じたといえますか、家庭環境や社会環境の違いによって人はこんなにも異なるのだとい

して経済的な支援とともに文化面・教育面での援助をし、アメリカ研究を教えるために海外の大学に先生を送ることもアメリカ政府の重要な政策でした。それに対応して東京でアメリカ研究コースを設置したのが、津田塾大学と日本女子大学と東京大学でした。フルブライト・プログラム（アメリカの故ウィリアム・フルブライト上院議員の働きかけによって一九四六年に発足した、アメリカと諸外国との相互理解を目的とした人的交流プログラム）の先生が毎年いらして、ほかの大学に比べると津田塾大学のアメリカ研究は随分早く始まったわけです。

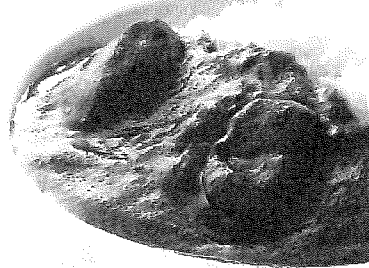
茂木 津田塾大学は宿題を出すそうですね。

飯野 はい。それは本当に大変でした。

茂木 日本の大学では珍しいですが、聞くところによると、津田塾大学とICUと秋田の国際教養大学がかなり宿題を出すようですよ。

飯野 夏休みに豊中へ帰って、阪大に入った高校時代の友達と会うと、みんな「楽で楽で」

ひとりで食べても  
美味しい。



麻布十番シリーズ 全18品



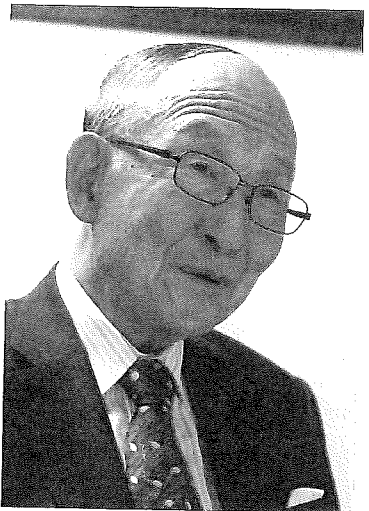


飯野正子

公益財団法人

日米教育交流振興財団理事長

大阪府生まれ。1966年津田塾大学芸学部英文学科卒業後、フルブライト奨学生として米国シラキュース大学大学院歴史学科入学、68年同学科修士課程修了 (Master of Arts 取得)。69年津田塾大学芸学部非常勤講師、78年同大学専任講師、81年同大学助教授、91年同大学教授を経て2004年同大学学長に就任 (12年)。この間、カナダ・マギル大学客員助教授、同アカディア大学客員教授、米國カリフォルニア大学バークレー校客員研究員等務める。12年公益財団法人日米教育交流振興財団理事長に就任。津田塾大学名誉教授。97年『日系カナダ人の歴史』(東大出版会)でカナダ首相出版賞受賞。2001年国際カナダ研究カナダ総督賞受賞。



茂木友三郎

キックマン 榎

取締役名誉会長 取締役会議議長

日本生産性本部会長

1935年千葉県生まれ。58年慶應義塾大学法学部卒業後、キックマン 榎入社。61年米國コロンビア大学経営大学院卒業、日本人第1号のMBA取得。95年代表取締役社長CEO、2004年代表取締役会議議長CEO、11年取締役名誉会長。取締役会議議長就任。現在に至る。日本アカデミア共同塾頭、経済同友会終身幹事、日本米国中西部会会長等。1999年藍綬褒章、2003年オランダ王国オレンジ・ナッソール勲章、06年ドイツ連邦共和国功勳章大功勞十字章受章。著書に『醤油がアメリカの食卓にのぼった日』(PHP研究所)、『キックマンのグローバル経営』(生産性出版)、『国境は越えるためにある』(亀甲萬)から『KIKKOMAN』へ(日本経済新聞出版社)等。

と言うのです(笑)。なにしろ、私は宿題をするのに本当に必死でした。

茂木 卒業論文は何をお書きになったのですか。

飯野 当時は、エドウィン・ライシャワーさんが駐日アメリカ大使(在任期間…一九六一〜六六)を務めておられて、彼が何を考えてどのようなことをなさったかということ、もうひとつは、その頃よく知られるようになった平和部隊 (Peace Corps) : 発展途上国に青年を派遣して技術教育などの支援を行う、一九六一年アメリカ政府によって設立されたボランティア計画) が非常に面白かったので、それについて論文を書きました。

### フルブライト奨学生として留学

茂木 卒業後、アメリカに留学されたのですね。

飯野 卒業と同時に、フルブライト奨学生として、ニューヨークのシラキュース大学大学院に留学しました。それで今、日米教育交流振興財団(フルブライト記念財団)の理事長を務めさせていただいて、少しでもご恩返しができるかと思っている次第です。今年四月に、その時にお世話になったラルフ・ケチャム先生の初来日五十周年を機に、先生と奥さまを日本にお招きする計画を、同様に先生にお世話になった友人とともに立て、実現できました。先生は八十七歳になられますがとてもお元気で、大変喜んでくださいました。ケチャム先生は、「アメリカ建国の父」と呼

ばれるベンジャミン・フランクリン(一七〇六〜九〇)や、第三代大統領のトーマス・ジェファソン(一七四三〜一八二六)など、建國史を研究なさっていたのですが、一学期間だけ日本にいらして、大変楽しく教えられたので、帰る時に誰か日本の学生を一人連れて行きたいとおっしゃったのです。それも、男子ではなく女子学生がいいということで、日本女子大学と津田塾大学の先生に誰かを推薦してくださいとお願いなさったそうです。それで、なぜか私が行かせていただけになったのです。その時は、四年生の一年間学部で学んで帰ってくるスペシャルチューデントとして、先生のお宅に住まわせていただくことになりました。でも、当時は単位の互換制度などありませんから、四年生で留学したら卒業が一年遅れるわけです。それは良くないので、卒業して大学院に行くという方法はないかと、ケチャム先生が大学と交渉してくださいと、卒業してからフルブライト奨学金制度の試験を受けました。

留学が決まった時は、「私たちがお預かりしますからご安心ください」といって、ケチャム先生が奥さまと一緒に私の豊中の実家までわざわざ挨拶に来てくださいました。そうして、シラキュース大学大学院に行くことができたのです。

茂木 それは立派な方ですね。

飯野 本当に素晴らしい方です。

茂木 シラキュースの街の中に住んでいらしたのですか。



飯野 はい。大学のそばにケチャム先生のお宅がありまして、私の部屋を用意してくださいました。部屋代は要らない、その代わりにペビーシッターなどのお手伝いをするようにということ、本当に良い経験をしました。

### 移民の研究から学んだこと

茂木 どのくらいいらしたのですか。

飯野 三年です。

茂木 何を勉強なさったのですか。

飯野 アメリカ史です。移民のことを勉強し

飯野 そのような経験をした方々について知ること、社会の多様性を知ることになるわけですが、移民の研究は本当に興味深く、すつかり虜になりました。

茂木 掘り下げていくと非常に深い問題ですね。面白い勉強をされて、論文に書かれたのですね。

飯野 一世の女性たちは立派だったなと思います。もちろん男性もそうですが、大変な中で生きて子どもを育てて、本当に立派だな。でも、当時、その方々が八十年代、九十年代の頃にインタビューをしたわけですが、あれほどの苦労をされたのに皆さん明るいのです。最初は少しおぼろげとした様子でしたが、話を聞いてもらえるということ、喜ばれて、最後はまた来てくださいなとおっしゃってくださいました。なかには、封筒に「寸志」と書いて、お小遣いをくださる方もいました。それは今も取っています。豊かな経験をされた方々と話す機会を持ったことで、私の心も豊かにしていただきました。

そうすると、人を題材にして研究するなどもつてのほかだと思ふようになったのです。これを研究材料にするのはもったいない。当時、出版社がその論文を本にして出さないかと言ってくくださったのですが、これを研究成果としていいのかしらと考えて、なかなか出版する気持ちになれなかったのです。研究者の中には、「苦しんだ経験がないあなたに、この研究をする資格はない」とおっしゃる方もおられました。でも、やはり、一世は高齢

ました。

一年経つと修士論文のテーマを考えなくてはいいけません。ケチャム先生の専門は私の苦手な建國史で、授業は受けましたが、論文にすることは考えていませんでした。ちょうど私のアドバイザーをしてくださった方が社会史の専門で、私が移民のことをやりたいと言いましたら、それは社会史のとても重要なテーマだといって大変興味を持ってくださった。あなたは日本語の資料が読めるのだから日本からの移民の研究をしたらどうかと、とても良いアドバイスをいただいたのです。それで、一九二四年の移民法で日本からの移民がシャットアウトされたことについて調べました。

茂木 日本からの移民が始まったのは明治維新の頃ですね。

飯野 そうです。明治元年（一八六八）に横浜から百五十人が船に乗ってハワイに渡った、いわゆる「元年者」が最初とされています。

茂木 本土への移民はもう少し後ですか。

飯野 一八八〇年代以降に多くなります。

茂木 その後日米の戦争が始まって、日系人が強制収容されたのは西海岸のほうだけですか。シカゴに行った方もいますね。

飯野 シカゴの方々は影響を受けなかったようです。仕事がないなど、差別はあったようですが。

茂木 西海岸の方々は、仕事も家も財産も、それまで築き上げてきたものが全て没収されて、お気の毒でした。

で亡くなられていきますし、一世の女性たちがなぜ私に話してくださったかという、自分たちの経験を知ってほしい、社会に知らせてほしいというお気持ちだったのです。あなた方はアメリカで苦しい経験をされたけれども、それを乗り越えて立派に花を咲かせてこられました。それで随分迷いましたが、その基盤にあった国と国との関係、日米関係の波を中心にして書くなら人に迷惑をかけることではないかと考えまして、十年ぐらいかかってやっと本にしました。

茂木 ヘンリー杉本さん（一九〇〇〜九〇）という画家が収容所にいた頃のことを描かれて、日本に帰国された時に個展を開かれたね。

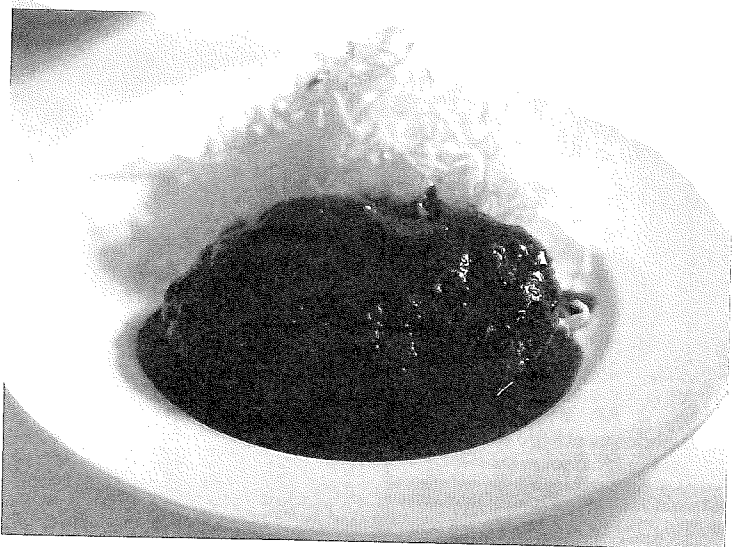
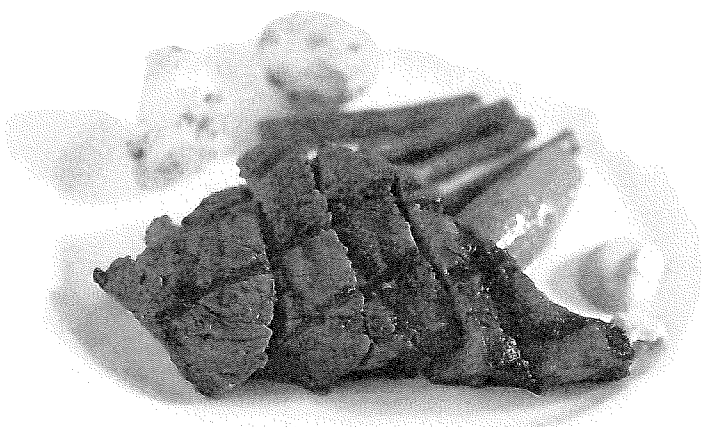
飯野 あの絵を観ても、暗くはなくて、とても穏やかでしょう。乗り越えておられるといえますか、それがとても不思議で、こちらにも豊かになるような感じなのです。

これは多様性を認めるということと繋がってきますが、相手の立場に立つて考えられる

手わざ時をつなぐ  
心をつなぐ。

創業寛永元年  
長崎カステラ本家  
福砂屋  
SINCE 1624  
長崎・東京・福岡

目黒店/東京都目黒区青葉台1-26-7 ☎03-3793-2938  
※お求めは、上記の直売店のほか有名百貨店でどうぞ。  
カステラ文化館 <http://www.castella.co.jp>



かどうかということがグローバルゼーションの一番の基本ですよね。私はケチャム先生のおかげで留学することができて、その土地の方々にも大変お世話になりました。外国に行つて不自由なことも不安がたくさんある中で受けた親切というのは、本当にありがたいです。そうすると、こんなによくしていただいた自分には何かできることはないだろうかと思ふに考えますよね。インタビューをした日系アメリカ人の方々も、国と国との関係を考え、自分の立場を振り返りながら、こういう時には

こうすればいい、ああすればいい、人にはこうしてあげようと思われながら生きてこられた。そこから学ぶことがたくさんありました。学生時代も、研究している時もそうですし、立場は違いますが、人と人との繋がりはこうやって国境を越えて存在するのだなと強く思いましたね。

### 日米・日加関係の比較研究

茂木 アメリカの大学院を卒業されて、その後、津田塾大学の教員になられたのですか。

飯野 はい。津田塾大学の非常勤講師にならないかというお話をいただいて帰国しました。茂木 何を教えられたのですか。

飯野 アメリカ文化や英語の授業を担当しました。そして十年程して、助教教授の時に一年だけですが、カナダのモントリオールにあるマギル大学の客員助教を務めました。茂木 それはいつ頃ですか。

飯野 一九八八〜八九年です。茂木 モントリオールはヨーロッパ的な街ですね。アメリカに留学していた時に、友人とモントリオールの郊外ヘスキーに行きました。が、まるでフランスへ行ったような印象でした。

飯野 とても魅力的なところですよ。茂木 公用語がフランス語ですね。飯野 そうです。大変でした(笑)。マギル大学では英語で教えたのですが、学生はフランス語で論文を書いてもいいということになっていまして、フランス語で書く学生の論文は、フランス語が読める先生に助けてもらっていました。

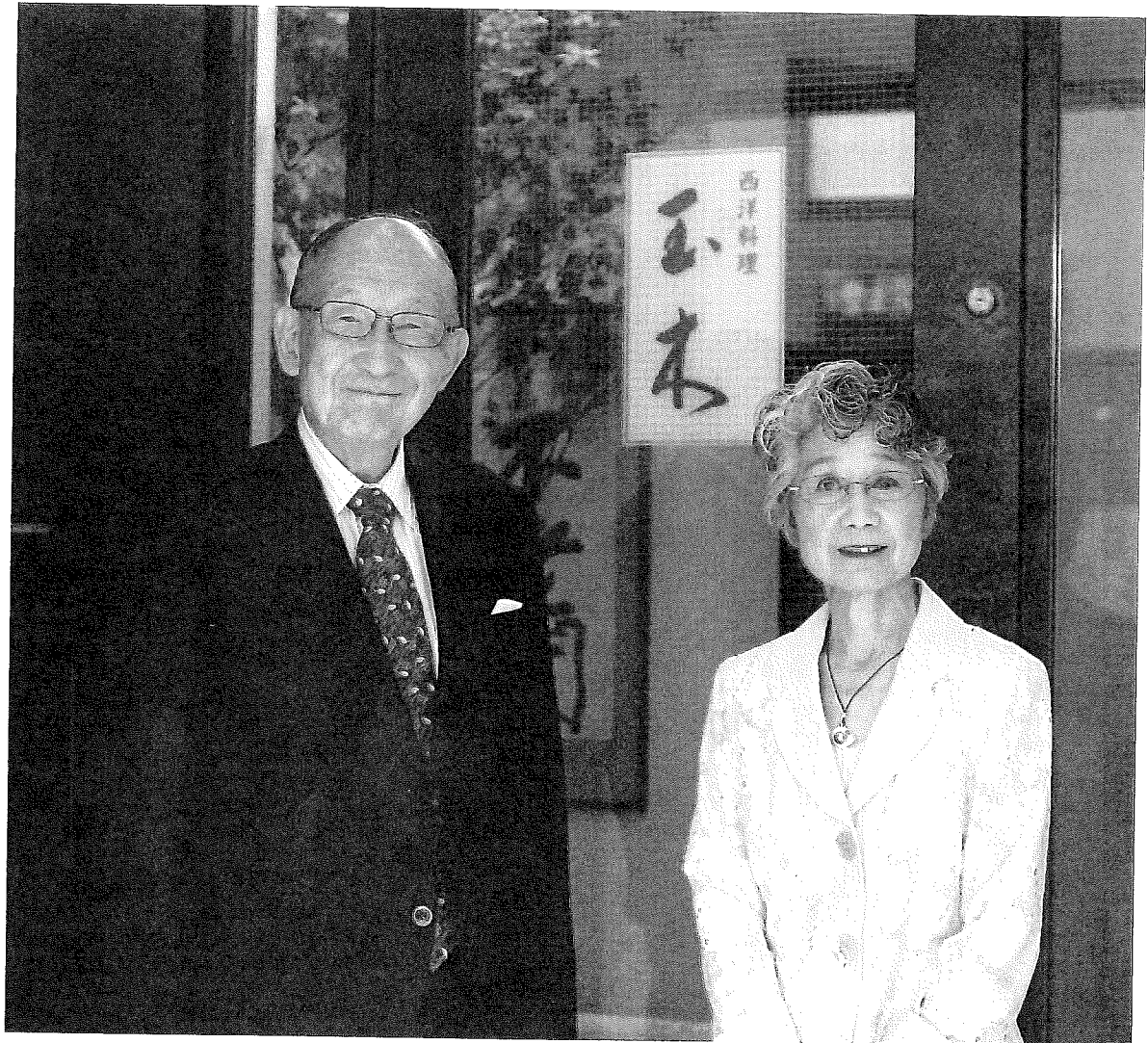
茂木 どのような講義をなさったのですか。飯野 日加関係です。一九七〇年代後半に、その十年前のアメリカ政府と同じような姿勢のカナダ政府によってカナダ研究が日本で支援されたのです。その時にたまたま、カナダ研究と一緒にやりましょうという仲間がいて、カナダの歴史の本を日本語に訳したのです。それがきっかけでカナダの歴史を勉強し、日本からの移民は世界のいろいろなところにい

るわけですから、グローバルに調べることが移民研究の本来の形で、目指すところであると、力もなくてそんなにことを思つてカナダの日系人政策を研究し始めたわけです。カナダのことを研究し始めてとても面白いと思つたのは、アメリカとカナダは隣り合わせですから、日本からの移民は両国を行ったり来たりしているのです。国によって政策が違いますし、国と国との関係が違うから移民の処遇も違うわけです。例えば、福祉の違いがあります。カナダのほうが規律を重んじる、それでアメリカからカナダに移つた方もいました。逆に、カナダでは物足りないということとでアメリカに行つた方も多かったようです。茂木 ダイナミズムはアメリカのほうがありますからね。飯野 そうですね。そうした比較をしてみるのも面白そうだと思います。日加関係の中の移民のことを話してもらえないかというお招きをいただいて、マギル大学

**すし道一筋**  
すし善

銀座店  
東京都中央区銀座7丁目8-10  
FUKUHARA GINZA B1  
Tel.03-3569-0068

本 店  
札幌市中央区北1条西27丁目59  
Tel.011-612-0068  
<http://www.sushizen.co.jp>



へ行ったわけですよ。

### カナダでの思い出

茂木 その時はお子さんも一緒に行かれたのですか。

飯野 娘は中学生だったのですが、その年齢の子どもを一年だけ連れて行っても、英語は上手にならないし、帰国してから学年は一年遅れるし、連れて行かないほうがいいと、私の周りの友人でそうした経験のある人はみんな反対したのです。それで、どうしようかなと思って娘に聞いてみると、「私も行く」と言うので、結局連れて行くことにしました。でも実際行ってみると、娘の中学校の友達が家にしよっちゅう遊びに来て、その地の社会に向けてもうひとつの窓口ができたようで、とても楽しかったです(笑)。

茂木 高校生くらいまでなら一年行けば英語は上達しますよ。お嬢さんは英語がうまくなりましたでしょう。

飯野 上手になりました。特にヒアリングが良くなりましたね。

茂木 私どもは「YFU日本国際交流財団」(Youth For Understanding)という、高校生の交換留学を促進する組織の支援をしているのです。渡米する前の送別会で、英語でスピーチをするように言われるともじもじしているのですが、一年後に帰ってきた時の歓迎会では、自信を持って英語で話すようになります。ですから、一年でも意味はあると思います。その時に覚えた英語は忘れませんよ。

飯野 そうでしょうね。

茂木 ご主人もカナダには何回かいらっしゃったのですか。

飯野 はい。ある時、仕事でバンクーバーに二週間ぐらい来ることになったのです。それで、週末が空いたのでモントリオールまで行くかなと電話があつたので調べてみると、飛行機代がものすごく高いわけです。それも現金で支払わないといけないし、一日しかいられないので、「やはり、行くのをやめようかな」と主人が言いましたら、娘が「私たちにはその価値がないの?」と。そうしたら来てくれました。あの時は可笑しかったです(笑)。それ以外にも主人は仕事で五、六回カナダに来ましたから一緒に楽しみました。

その後、カナダのノバスコシア州にあるアカディア大学にも集中講義で三回ぐらい行きました。

茂木 モントリオールも寒いところですが、ノバスコシアはさらに寒いでしょう。



TSUNAHACHI

天麩羅会席

新宿つな八  
つのはず庵

東京都新宿区新宿3-28-4  
TEL03-3358-2788 FAX03-3352-5651  
http://www.tunahachi.co.jp

飯野 寒いです。その時には、こんなことがありました。ノバスコシア州は電気代が高いですね。招いてくださったアカディア大学の先生のご自宅に泊めていただいたのですが、みんなが集まっていたところに、たまたまカリフォルニアに住んでいる姉から電話がありました。電話口で私が「ここは寒いよね」と言ったのです。誰も日本語はわからないと思っていたら、先生の奥さまが昔日本にいたことがあって、日本語を少し理解できるというので「寒い」がわかったんですね。「正子、ここは電気代がとても高いのよ。でも、あなたがいる間は暖かくしてあげるわ」と。その日から突然家中が暖かくなりました(笑)。

最近では、津田塾大学の学長(二〇〇四、二〇〇五)を終えてすぐ、二〇一三年にアメリカのプリンマー大学(ペンシルバニア州)に半年間行きました。

飯野 その時は何を教えられたのですか。  
茂木 何かの授業をするというのではなくて、講演をしたり、あちらの学長が出る社交の場に一緒に行って学生や教員に会ったり、教員が必要とすればどこへでも出かけて行って話をしてほしいという条件で行きました。この年になると若い時とは違った学びがありますから、とても楽しかったです(笑)。

### 減少する日本人留学生

茂木 現在は日米教育交流振興財団の理事長をなさっていますが、フルブライト奨学金が今まで果たしてきた役割というのは大変なも

りかを知ってもらうことに意味があるのだという姿勢は素晴らしいなと。

先程お話ししたように、私が留学した時に書いた論文は移民法について書いたもので、アメリカを批判するものだったわけです。けれども、面接教官も指導教官も、日本からの移民をシャットアウトしたのは、アメリカ側にはこういう理由があったのだから仕方がないではないかと言いたくなるころを、誰一人としておっしゃいませんでした。その時は私はナイーブで、わかっていますけど、素晴らしいことだったのだなと何十年も経って思います。

茂木 懐が深いですね。

飯野 そうでなければ国際交流はできないと思います。

茂木 戦後の日本に対するアメリカの態度というのは立派なものです。アメリカを中心とした多くの国々のサポートによって、日本は短い間に見事な復興を遂げたわけですから。

のですね。今後、その果たす役割は益々大きくなってくるのではないかと思います。飯野さんはどのようにお考えになっていきますか。  
飯野 やはり、日本の留学生の数が減ってきています。若者の内向き志向も指摘されますが、そこには資金の問題もあると思います。もともとフルブライト・プログラムは、アメリカの政策としてアメリカの文化を伝えることを目指していました。そしてフルブライト上院議員のお考えは、国と国との友好関係には個人の交流が大事だということでした。最近、特にコロンビア大学などもそうですが、アメリカの大学の学費が非常に上がって、ビジネス、福祉、医療など、分野によっては優秀な学生が留学を希望しても、多数をサポートできない。そうした厳しい現状があります。将来、日本のため、日米関係のために貢献する若者を育てるには、このような奨学金が必要だと思っております。

茂木 今は金利も安いでしょう。

飯野 そうですね。それと、アメリカ側のサポートが大幅に減りましたね。

茂木 アメリカは貧しい国にはいろいろとサポートをしますよね。ですから、日本が貧しかった時はたくさん資金を出してくれたでしょうが、今はその頃とは違いますからね。

飯野 私がフルブライト・プログラムに感銘を受けたのは、アメリカを知ってもらうために学生を呼ぶわけですが、必ず親米になりなさいというのではないのです。反米になってもいい、嫌米になってもいい、それでもアメ

飯野 本心に、信念にもとづいたサポートがなされているというのは素晴らしいですよ。でも、日本人の留学生の数が少なくなっているのは寂しいですね。

茂木 三年前前、コロンビア大学ビジネススクールの講演を頼まれて行った時に聞いた話では、その年の秋にビジネススクールに入学した日本人は一人でした。それと二年生に三人、全部で四人ぐらいです。その後少し増えたようですが、それでも一年に三、四人程度です。理由を聞くと、ひとつはアメリカへ行って勉強をしようという意欲を持った日本の若者が少なくなっている、もうひとつは韓国と中国の学生が優秀になって日本人は見劣りしている。日本は考えなければいけませんね。

飯野 どこをどう変えればいいのかと思うのですが…  
プリンマー大学は、津田梅子さん(一八六四〜一九二九)が留学された由縁で津田塾大学と姉妹校の関係にあり、毎年必ず一人は留学

### 飲食店専門

## 接客英会話レッスン

株式会社華ひらく  
hana-hiraku.com

飲食店 英語 検索

生が行っているのです。最近は何こうからも来るようになって、交換留学の協定が結ばれているのですが、私が二〇一三年にプリンマー大学に行っていた時は、津田塾大学から一人も来ていませんでした。

私が学長の時も、国際センターからの報告に「プリンマー大学再募集」とあったので、どういふことか尋ねると、誰も応募してこないのだというわけです。その理由は、ひとつに、プリンマー大学はTOEFL(英語能力試験)のレベルが高くて、なかなか要求水準に到達しないと。それでも私が教えていた十数年前は、学生はTOEFLの試験を何度も受けてその水準に到達するように頑張ったのですが、最近では自分の能力の範囲内で大学を選ぶほうがいいというのです。もうひとつは、プリンマー大学は良い大学だけど、勉強が大変そうだから楽しいところへ行くほうがいいと。みんながみんな同じ考えではないと思いますが、国際センターが私の要請に対して調査して出てきた答えにそうあったので、ちよつとがっかりしました。

茂木 それは残念なことですね。

飯野 それでプリンマー大学に聞いてみたら、日本からの学生がその年は一人でした。当時のプリンマー大学の学長は国際化を図ることを掲げられて、学生数が千三百人ぐらいの小さな大学なのですが、その方が学長になられてから二、三年のうちに留学生が全学生の二十三パーセントに増えたのです。その留学生のうち七十五パーセントが中国の方でした。

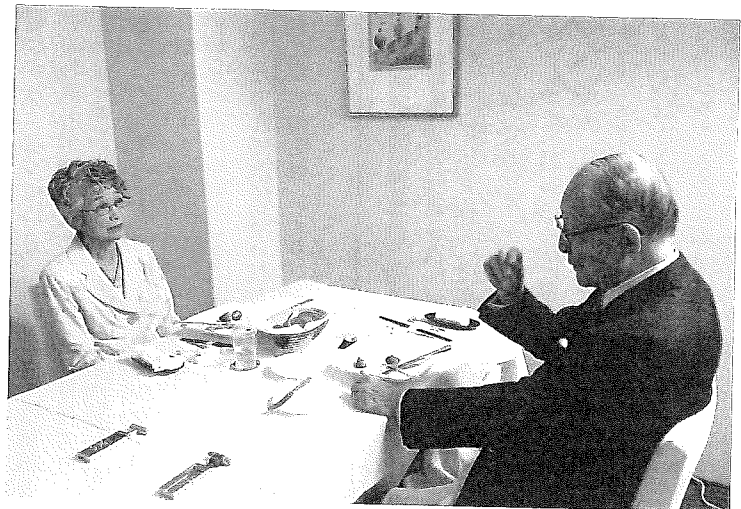
昔から全く変わっていないような感じがします。津田塾大学を出た学生は、社会に出てすぐに英語が使えるようになりますか。

飯野 私より上の卒業生は英語も含めいろいろな面でとても優秀だったようで、津田塾大学の評価が高くなりました。最近の学生は真面目な人が多くて、前の卒業生の評価があまりにも高いために、自分も同様に期待されているのが負担だといって訴えてくることがあるのです。そこで折れてしまわないで、期待に応えようと頑張れるような人は、海外に行っても活躍できるのだと思います。

茂木 おっしゃる通りですね。

ところで、学長を退かれてから少しは時間のゆとりができましたか。

飯野 そうですね。本当に忙しくて何も出来ないまま過ぎてしまいましたが、今は旅行をするのが楽しみです。一年に四、五回海外へは行っているのですが、仕事で行くことがほとんどだったものだから、これからは楽しみ



茂木 どの大学も中国や韓国、インドからの留学生が増えて、日本の学生は少なくなっているようですね。おっしゃる通りに、そうした風潮をどう変えるかというのはなかなか難しい問題です。

飯野 難しいですね…。

茂木 日本の英語教育は、昔と比べると少しは良くなっていると思いますが、まだ実用にはなりませんよね。日本で中学・高校・大学を出ると十年間英語に親しんでいるはずなのに、ほとんど使い物にならないというのは、

のためだけの旅行をしたいですね(笑)。

茂木 最近はこちらへ行かれましたか。

飯野 カナダに行きましたし、イギリスも楽しかったです。誘われるままにイギリス人の友達と旅行したり、カナダ人の友達と旅行したり。一昨年もその前も、カナダ人の友達が誘ってくれて、四人で一台の車に乗ってカナダの東部や北部のほうへ二週間ぐらい行きました。今年の夏も三日間だけですが、その方のお家に行きました(笑)。

茂木 それはいいですね(笑)。では、今日はこの辺で。いろいろと楽しいお話をありがとうございました。

飯野 こちらこそ、ありがとうございました。

(銀座・玉木にて)

次号は「宮内義彦対談」、ゲストは株式会社アシスト代表取締役会長のビル・トッテンさんです。

(撮影：久保寺誠)

八海山の頂上から順々に衣替えが始まります



魚沼の里

新潟県南魚沼市